

膀胱がんとは？

がんは、体内の正常な細胞ががん化し、増殖・転移することで起こる病気です。

膀胱がんは、膀胱（下腹部の内側にある尿をためる小さな袋）に発生する病気です。徴候や症状としては、血尿、頻尿、排尿痛、背部痛などがあります。

どのようにして起こるのか？

私たちの体には、細胞と呼ばれる小さな構成要素が何十億個もあり、通常は制御された方法で増殖と分裂を繰り返し、私たちの機能を正常に保っています。

時に、この秩序あるプロセスが乱れ、一部の細胞が制御不能なほど過剰に増殖し始め、腫瘍と呼ばれるしこりを形成することがあります。このしこりは、皮膚にできる場合もあれば、皮下組織にできる場合もあります。

膀胱がんの場合、腫瘍は一般的に膀胱の内壁から始まり、ある症状とともに発見されます。

膀胱癌の腫瘍の進達度は、膀胱のどの部分まで腫瘍が入り込んでいるかによって決まります。

1. 腫瘍が筋層まで入り込んでいない
2. 腫瘍が筋層内まで入り込んでいる
3. 筋層を超えて脂肪組織や周辺の臓器に入り込んでいる

喫煙は膀胱がんの最大の危険因子であり、加齢、特定の化学物質への暴露、遺伝学的因子も原因と考えられます。膀胱がんは早期の段階で発見され、治療すれば治る可能性が高いがんです。

治療の流れ



認識



症状



膀胱がんの
疑い



診断



治療の選択肢
提示

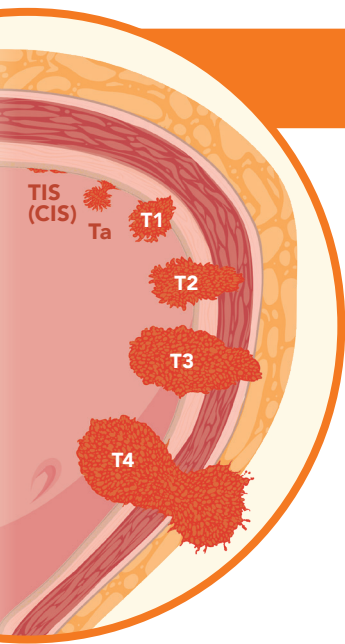


治療



フォローアッ
プとアフター
ケア

膀胱がんは、大きく分けて2つのタイプがあります



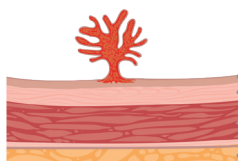
筋層非浸潤性膀胱がん

- 病期 TIS/CIS、Ta、T1（早期）
- 膀胱がんと診断された患者さん全体の70～75%
- がんが粘膜下層に留まっていて筋層に達していない

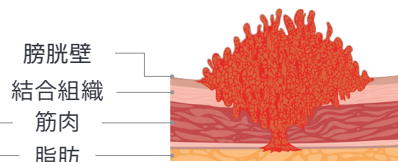
筋層浸潤性膀胱がん

- 病期 T2、T3（腫瘍が筋肉や周囲の脂肪に深く広がっている）、T4（腫瘍が他の臓器や体の一部に進行して広がっている）
- 膀胱がんと診断された患者さん全体の25～30%
- 腫瘍が膀胱壁の筋肉に浸潤している

筋層非浸潤性



筋層浸潤性



治療にはどのような種類がありますか？

膀胱がんの治療は「一律」ではなく、患者さんごとに異なります。(進達度や悪性度、上皮内がん併発の有無、がんの数や大きさなど)。



膀胱内注入治療(局所)

化学療法とBCG (Bacillus Calmette-Guérin)：体内の免疫系を刺激して腫瘍細胞を攻撃し、最終的に制御不能とし、増殖を止める。



全身治療

膀胱がん治療に使用する薬剤は、主に点滴チューブから液体の形で投与する注射剤と、口から飲む経口剤があり、どちらもがん細胞を攻撃して、増殖を止める。



手術

経尿道的膀胱腫瘍摘出術(TURBT)と呼ばれる手術で腫瘍を取り除く。がんが進行している場合は、膀胱摘出術(根治的膀胱摘出術)が推奨されることもある。



放射線治療

高エネルギーの放射線を使ってがんを狙い撃ちして縮小させたり、手術後に取り残されたがんを治療したりする。



大切なこと

治療法の選択は、患者さんの膀胱がんの種類や病期によって異なることをご理解ください。主治医は患者さんやご家族とよく話し合い、一人ひとりの患者さんにとって適した治療方針を決定していきます。

支援を受ける

膀胱がんの治療を受ける際、必要であれば患者さんを支援する団体へご相談することもご検討ください。



1. 患者団体

がん患者団体について、インターネットで検索するか、医師や看護師に尋ねてみましょう。これらの団体は貴重なリソースやサポートを提供してくれます。

ご自身でもサポートグループを立ち上げたい場合、**世界膀胱がん患者連合 (World Bladder Cancer Patient Coalition)** から案内資料を入手できます。



2. ウェブサイトで患者さんの体験談を読む：

他の患者さんの体験談を知ることは、ご自身の膀胱がんの診断や経験を理解する上で大変役立ちます。

主治医や看護師は、同じような状況にいらっしゃる他の患者さんにつながるための支援もしてくれます。



3. 連絡先：

ご質問や、膀胱がんに関する情報や資料については、**patients@worldbladdercancer.org** までご連絡ください。



ひとりでは
ないです。

あなたは1人ではありません。必要なサポートを周囲にもご相談ください。